

スペイン語の母音の持続時間： 日本語の長音との比較において

La duración vocálica en español: en comparación con el japonés

安 富 雄 平
Yuhei YASUTOMI

0. はじめに

正書法は一つの言語を書き記す方法として定まっているものであって、字母は必ずしも音声との一対一の対応を成していない。この点が音声記述にあたって、単音とそれを表す記号とのあいだに整然とした一対一の対応関係を成立せしめようとする音声記号⁽¹⁾と決定的に異なる。従ってある言語の音声を別の言語の正書法の体系を用いて書き表そうとすると実に様々な、時には困難な問題に遭遇することになる。

日本語の仮名表記の体系は基本的に音節⁽²⁾文字体系であるから、音節構造が異なる他言語の音声表記にそのまま当てることはかなりの無理が伴う。しかるに外国語を仮名で書き表したり、外国語に仮名でルビを振ったりしようとする試みは古くから行われているし、仮名を用いた一種の音声記号で発音を示した辞書もみられる。⁽³⁾ 語学教育上は、外国語の仮名表記に関して便宜上良しとする考え方と不可とする考え方がある。「外国語の仮名表記」の是非についての議論は多々あろうが、翻訳に於ける固有名詞のカタカナ表記に限っていえば、カタカナ表記法確立の必要性は万人の認めるところであろう。

仮名表記の確立に向けてなされた一つの優れた試みとして、「スペイン語固有名詞のカタカナ表記の基本原則」⁽⁴⁾が提唱されている。これは日本語のカタカタで表し得る限り、なるべく日本人の耳に聞こえる通りに表記するとある。この際、聴取者の判断に不一致の認められる場合が問題となる。

1. スペイン語の母音の長音表記

スペイン語のアクセントのある音節に現れる母音はアクセントの無い音節に現れる母音よりも長くなる傾向があるため、⁽⁵⁾ 日本語人⁽⁶⁾には長音の類として知覚されることがある。ところが日本語人がスペイン語のアクセントのある音節の母音を聞いて長音と判断するかどうかには個人差が甚だしく、スペイン語固有名詞の音訳には、人によりバルセロナ／バルセローナ (Barcelona), ルイサ／ルイーサ (Luisa) のような表記の揺れがみられる。

本研究は、スペイン語のアクセントのある音節の母音の持続時間と日本語人の長音／短音の判断との関連を音響音声学的に検討し、両言語に於ける母音持続時間の自由度を探るものである。

2. スペイン語のアクセント

スペイン語のアクセントは、語のレベルでは1語1ヶ所(1音節)を原則とする。⁽⁷⁾ 2音節以上の語では次の規則によってアクセントのある音節の位置が決められる。すなわち、語末が母音字及び n, s ならば、末尾音節

に、それ以外はうしろから2つ目の音節にアクセントがある。⁸⁾ この規則からはずれる語はアクセント記号を付して不規則なアクセントの位置が示される。

音響学的には音節の長さ、強さ、高さ、音色の4要素が関連するが、もとよりこれらのうちの1つが単独でアクセントの要素となっているのではない。一般に1つの語のアクセントのある音節はアクセントの無い音節よりも相対的に長く、強く、高くなる傾向を示す。ただし各要素の重要度に関しては研究者の間に異論が無くはない。Navarro Tomás (1985) はスペイン語のアクセントは強さのアクセントであるとし、Quilis (1981) は基本周波数を最も重要な要素であるとしている。また Canellada & Madsen (1987) は長さを最重要としている。

3. 聴取実験

日本人がスペイン語を聴取する場合どの程度長音として聞き取るのかを調べるため、拓殖大学スペイン語学科の3・4年生11名に *Manual práctico de corrección fonética del español* (Sánchez/Matilla) のテープから33の単語を書き取ってもらった。その際、実験の趣旨は伏せたまま、聞こえた通りに片仮名で書くよう指示した。

結果は以下の通りであった。() 内の数字は件数を示すが無回答があるので必ずしも総和が11ではない。

1	mesa	メサ (10)			
2	símbolo	シンボロ (10)	シンボル (1)		
3	policía	ポリシア (7)	ポリフィア (1)	ポリシーア (3)	
4	felices	フェリセス (7)	フェリーセス (3)	セリセス (1)	
5	magnífico	マグニフィコ (10)	マニフィコ (1)		
6	libro	リブロ (10)	リーブロ (1)		
7	vino	ビノ (3)	ビーノ (8)		
8	papel	パベル (10)	パベル (1)		
9	caro	カロ (9)	カーロ (2)		
10	coro	コロ (9)	コーロ (2)		
11	mona	モナ (9)	モーナ (2)		
12	semana	セマナ (11)			
13	tapa	タバ (11)			
14	lápiz	ラピス (9)	ラピエ (2)		
15	caño	カニョ (5)	カニオ (1)	カーニョ (1)	カンニョ (1) カーニオ (1)
16	libro	リブロ (9)	リーブロ (1)		
17	componer	コンポネル (5)	コンポール (2)	コンポネス (3)	
18	escribir	エスクリビル (5)	エスクリピール (5)		
19	copita	コピタ (7)	コピータ (2)	コピィタ (1)	
20	florero	フロレロ (9)	フロレード (1)		
21	cantor	カントル (10)			
22	búfalo	ブファロ (6)	ブァファロ (1)	ブホロ (1)	ブフェロ (2)

23	adanico	アバニコ (6)	アバニーコ (4)
24	famoso	ファミソ (9)	ファミーソ (1)
25	fenómeno	フェノメノ (10)	
26	femenino	フェミニノ (4)	フェメニーノ (6)
27	enano	エナノ (10)	
28	metemáticas	マテマティカス (8)	マテマテカス (1)
29	económico	エコノミコ (10)	
30	adorable	アドラブレ (8)	アブラブレ (1) アドラグレ (1)
31	Pepito	ペビト (6)	ベピート (4)
32	bolígrafo	ポリグラフォ (9)	ポリグラフホ (1)
33	banana	バナナ (9)	バナーナ (1)

- 注 1. 太字の語は長音/短音の判断に関して一致（長音で記述しない）が見られるものである。
 2. アクセントのある音節以外での長音/短音の表記の揺れは無かった。

4. 刺激音各セグメントの持続時間

聴取実験に用いたテープの33語の音声をフォトコーダー⁹⁾（波形）とサウントスペクトログラフ¹⁰⁾（パターン及び振幅描記）を用いて分析し、各セグメントの持続時間を1/400秒のオーダーで測定した。以下の数値の単位は1/100秒である。小数点以下は上付きの数字で示す。

1	mesa	14-8-14 ⁷⁵ -10 m e s a
2	símbolo	18-7 ⁵ -13 ⁷⁵ -4 ⁷⁵ -5-3 ⁵ -14 s i m b o l o
3	policía	1-8-5-8-16 ⁵ -10 ⁵ -15 p o l i c i a
4	felices	9 ⁵ -4-8-11-14-10-22 f e l i c e s
5	magnífico	8-11-3-15-7-14 ⁵ -5-10 ⁵ -15 m a g n i f i c o
6	libro	8-10-6-7 ⁵ -12 l i b r o
7	vino	11-15-8 ⁷⁵ -14 v i n o
8	papel	4-7 ⁵ -13-9-13 p a p e l
9	caro	4-13 ⁵ -3-14 ⁵ c a r o
10	coro	4 ⁵ -15-2 ⁵ -15 ⁵ c o r o

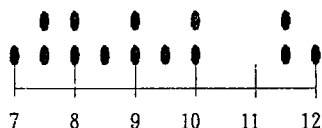
11	mona	18 ⁵ -12 ⁵ -10-15 m o n a
12	semana	14 ⁵ -7-8 ⁵ -10-8-12 s e m a n a
13	tapa	4-12-13-11 ⁵ t a p a
14	lápiz	15-8-12-12 ⁵ -12 l a p i z
15	caño	4 ⁵ -10-24-9 ⁵ c a ñ o
16	libro	10-10 ⁵ -8 ⁵ -7 ⁵ -13 ⁵ l i b r o
17	componer	4-7-9 ⁵ -8 ⁷⁵ -9-7-12-11 ⁵ c o m p o n e r
18	escribir	8-9-11 ⁵ -4-8-4 ²⁵ -11 ⁵ -10 e s c r i b i r
19	copita	3 ⁵ -6 ⁷⁵ -10-9-13 ²⁵ -13 c o p i t a
20	florero	6-9 ²⁵ -10 ²⁵ -2 ⁵ -10 ⁵ -4-14 ⁵ f l o r e r o
21	cantor	4 ²⁵ -8 ⁷⁵ -13-10 ²⁵ -10-17 ⁵ c a n t o r
22	búfalo	15-8-13 ⁵ -6 ⁷⁵ -7-10 ⁵ b u f a l o
23	abanico	8-3 ⁵ -10-7-7-15-13 ⁵ a b a n i c o
24	famasso	11 ⁵ -9 ⁵ -8 ⁵ -8 ⁵ -18-13 f a m o s o
25	fenómeno	10-10 ²⁵ -8 ⁵ -9 ⁵ -6-8-7 ²⁵ -13 f e n o m e n o
26	femenino	6 ⁷⁵ -7-8 ⁵ -8-7 ⁵ -8 ⁵ -11-13 ⁵ f e m e n i n o
27	enano	10-10-11 ⁵ -9-15 e n a n o
28	matemáticas	8-8-10 ⁷⁵ -4 ⁷⁵ -9-7 ⁵ -12-7-10-12-20 m a t e m a t i c a s
29	económico	9-9-8-6-9-6 ⁵ -10-12 ⁵ -14 e c o n o m i c o
30	adorable	12-7 ⁷⁵ -10 ²⁵ -2-11 ⁵ -7-11-16 a d o r a b l e
31	Pepito	4 ²⁵ -7-11 ⁵ -8-16 ⁵ -16 P e p i t o

32 bolígrafo 8-13-4-8⁵-8-2^{7.5}-8^{2.5}-13-12⁵
b o l i g r a f o

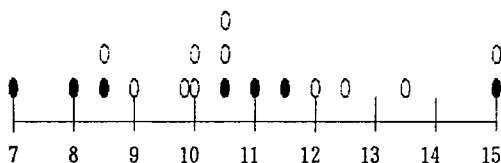
33 banana 9⁵-11-8^{7.5}-9^{7.5}-8⁵-16⁵
b a n a n a

5. 考察

1. 長音/短音の表記の揺れは、全てアクセントのある音節に見られる。語末の母音の持続時間は比較的長いがここで表記の揺れが起こらないのは減衰が大きいためと考えられる。
2. 短音表記で一致する場合の母音持続時間は7~12 (1/100sec) であった。



3. 長音/短音の表記の揺れがある場合の母音持続時間は7~15 (1/100sec) であった。●は長音表記が3例以上のものの。



4. 6, 16 libro, 9 caro, 10 coro, 11 mona, 17 componer, 20 florelo は母音持続時間が10 (1/100sec) 以上であるにもかかわらず、長音表記が少ない。
5. 23 abanico (4), 26 femenino (6) は母音持続時間が7及び8⁵ (1/100sec) であるが、長音表記が比較的多い。

6. 結語

スペイン語固有名詞のカタカナ表記を行う際の問題点の一つ、長音表記に関して聴取実験と音響分析を行った。アクセントのある音節の母音を日本語人が長音として聴取するか短音として聴取するかは、母音の持続時間（絶対量）のみでなく、音声環境や発話速度などを加味した相対量との関連を探るべく、さらに多くの実験が必要とされる。

注

本稿は1991年5月19日に行われた日本ロマンス語学会第28回大会（於上智大学）での口頭発表に加筆・補正したものである。

- (1) 服部四郎, 『音声学』(東京:岩波書店, 1984) p. 51.
- (2) 服部四郎は日本語の[atama] (頭) を例に挙げ、「それ自身の中に切れ目がなく、その前後に切れ目の認められる単音の連続または単独の単音」としている。(服部 op. cit. p. 143.)

- (3) 橋原良行, 「『クラウン独和辞典』の発音表記について」, 『三省堂ブックレット』, (No. 91, 1991) pp. 40-41
も参照されたい。
- (4) 原 誠他, 『スペインハンドブック』(東京:三省堂, 1982)。
- (5) Navarro Tomás, *Manual de pronunciación española* (Madrid: Instituto Miguel de Cervantes, 1985, 22ª ed.) pp. 197-207.
- (6) 日本語の母国語話者。hispanohablante = スペイン語人のように, 一般にある言語を母国ごとするひとを〇〇語人と称する。
- (7) -mente によって形容詞から派生した副詞などが例外で形容詞由来の部分と接尾辞との2ヵ所にアクセントがある。
- (8) アクセントの位置の規則に関しては, y は子音群扱いである。
- (9) YEW TYPE 2932 PHOTOCORDER。
- (10) RION SG-09。

主要参考文献

- Canellada, María Josefa & John Kuhlmann Madsen. *Pronunciación del español*. Madrid: Editorial Castalia, 1987.
- 服部四郎。『音声学』。東京:岩波書店, 1984。
- 原 誠他。『スペインハンドブック』東京:三省堂, 1982。
- Quilis, Antonio. *Fonética acústica de la lengua española*. Madrid: Gredos, 1981.
- . *El acento español*. Ciudad Universitaria (México): UNAM, 1982.
- . *El comentario fonológico y fonético de textos, teoría y práctica*. Madrid: Arco/Libros, 1985.
- Sánchez, Aquilino & J.A. Matilla. *Manual práctico de corrección fonética del español*. Madrid: S. G. E. L., 1986, 3ª ed.